

2021年3月野菜概況

北・東・西日本は記録的気温高。太平洋側では降水量が多く、西日本日本海側は多照だった。

3月は温暖かつ適度に降雨もあり、葉物類を中心に生育順調な品目が多かった。3月の野菜総入荷量は121,378t(前年比98%)で平年よりわずかに少ない。価格238円(98%)は平年よりやや安。金額は28,948百万円(96%)で平年を1割下回った。

だいこんは神奈川県産が終盤で減少する中、千葉県産が生育順調で増量。荷動きは鈍めな場面が多かった。総入荷量は平年より1割少ないが、価格77円(100%)は平年の2割近く安。**にんじん**は上旬に千葉県産がほぼ終了となる中、徳島産の出回りが始まる。中旬までは不足感あり高値となるも、その後は徳島産の増量で引合い弱まり相場は下落傾向に。総入荷量は平年よりやや少なく、価格210円(120%)は平年の4割近く高。

はくさいは茨城産の秋冬作が終盤となり減少。兵庫産は冷蔵品の出荷が始まる。量販店の品揃えが春商材に移り需要低下する中で数量充分なことから価格は低迷。下旬は茨城産の秋冬作と春作との端境となり不足して相場高まるも、月末には春作の増量で反落した。総入荷量は平年より2割近く多く、価格43円(42%)は平年の6割安。**キャベツ**は愛知・千葉・神奈川県産が生育順調、神奈川県産は本春キャベツが漸増。春商材として春系キャベツの引合いはまああるものの、全体的には数量充分かつ荷動き緩慢で安値推移。総入荷量は平年よりやや多く、価格62円(67%)は平年の4割近く安。**ほうれんそう**は関東産を中心に順調出荷が続いた。価格がこなれていることから荷動きはあるも、それ以上に数量潤沢で安値推移。総入荷量は平年より1割多く、価格334円(67%)は平年の2割安。**ねぎ**は関東産の秋冬作が不作なことから年始以降、高値が続いていたが、3月は高値反動や気温上昇による需要低下から徐々に相場は下落した。秋冬作から春作への移行が進んだが数量は引続き少なく、総入荷量は平年より2割近く少ない。価格468円(207%)は平年の6割近く高。**レタス**は静岡産が終盤となり減少するも茨城産が増量。上旬は荷余り感あるが中旬は前進出荷や他品目作業の影響で出荷の谷間となり相場上昇。下旬は数量回復して再び軟調相場となった。総入荷量は平年よりやや少なく、価格121円(68%)は平年の3割安。

きゅうりは関東産中心の出回り。天候による増減ありながら月前半は荷動き鈍め。後半は特売需要から引合いが強まった。総入荷量は平年並み、価格311円(88%)は平年並み。**なす類**は高知産中心の出回りで、曇天による減少予想とは裏腹に気温が高く数量は微減に留まり荷動きは鈍かった。総入荷量は平年よりやや多く、価格405円(90%)は平年より1割近く安。**トマト**は主力の熊本産が曇天による減少が予想されたがさほど減少せず数量充分。栃木産は小玉傾向が目立った。全体の荷動きは鈍めの場面が多かった。総入荷量は平年並み、価格353円(77%)は平年より1割以上安。**ピーマン**は高知・宮崎・茨城産が生育順調で潤沢な出回りから荷動き鈍く、相場は軟調推移。総入荷量は平年より1割近く多く、価格592円(88%)は平年並み。

ばれいしょ類は北海道産が大玉だったが玉付き悪く貯蔵量は例年より少なめ。鹿児島産は強風による塩害等から不作となり現地の引合い強く入荷が少なかった。不足感からの相場高が続いたため需要は徐々に低減するも、とにかく絶対量が少なく月を通して高値だった。総入荷量は平年より2割少なく、価格280円(222%)は平年の8割高。**たまねぎ**は静岡産が終盤に向け減少傾向となる中、佐賀産が漸増して産地移行が進んだ。総入荷量は平年よりやや少なかったが荷動きは月を通して鈍く、価格は101円(133%)と平年より1割近く安い。

【輸入野菜】にんじん・ごぼうは国産が高値だったため中国産を中心に前年より大幅増。ねぎも中国の主要産地である福建省の生育回復や、国産の高値により中国産を中心に前年比増。一方、キャベツはコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安値となったため、中国産を中心に前年比大幅減。ジャンボピーマンもコロナ禍で外食需要が減退する中で韓国産を中心に前年比減となった。かぼちゃも同要因でニュージーランド・メキシコ産が前年を下回った。